

## 29年12月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 12月1日～ 29年12月10日

## 2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
12月分の回答企業数は10社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
入荷動向	スギ・ヒノキ	6.3	△ 6.3	△ 18.8
	マツ	△ 14.3	△ 21.4	△ 21.4
	広葉樹	△ 11.1	△ 11.1	△ 5.6
消費動向	スギ・ヒノキ	28.6	14.3	7.1
	マツ	0.0	△ 6.3	△ 6.3
	広葉樹	△ 11.1	△ 16.7	△ 16.7
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 14.3	△ 7.1	△ 14.3
	マツ	△ 25.0	△ 18.8	△ 18.8
	広葉樹	0.0	0.0	0.0

・スギ・ヒノキ入荷動向は12月の増加から1月、2月は減少に。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの消費動向は3カ月連続増加。マツは12月の横ばいから1月、2月は減少に。広葉樹は3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキ、マツの在庫動向は3カ月連続減少。広葉樹は3カ月連続横ばい推移。

## (2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/12月	30/1月	2月
スギ・ヒノキ	0.0	0.0	0.0
マツ類	6.3	0.0	0.0
広葉樹	5.6	0.0	0.0

・チップ用国産原木の購入価格動向は、横ばい推移。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

・スギ・ヒノキ、マツはシステム材の入荷によりやや増加が見込まれる。広葉樹は季節要因や森林再生事業への移行により、入荷量は引き続き減少気味。在庫はスギ4.5→4.5カ月、マツ2.0→2.0カ月、広葉樹0.3→0.5カ月（東北）。

・広葉樹は若干の増加傾向にあるが、針葉樹の確保に苦労している（関東）。

・冬場のため原木の入荷は減少（中部）。

・スギ・ヒノキ、広葉樹とも冬場のため原木の入荷は減少（中部）

・仕入は変動なし。天候の影響が予想されるが横ばいと見通す（中国）。

・天候も良く仕入れは当月やや増加。翌月、翌々月は雪の心配があるため横ばい、やや減少と考えられる。消費は仕入動向に同じ（四国）。

・天候が不順だと山作業が遅れ、輸送もできなくなり仕入が減少することも考えられるが、今のところは変わらずの入荷を予定している。製紙用に回すスギ・ヒノキが不足している。全樹種とも出荷要望は計画通りに対応してもらっている。原木入荷が減れば減産となることも予想される。原木在庫は全樹種とも少なめで、出荷が順調なため回転よく消化しているという感じだ（九州）。

・スギ・ヒノキ、マツの原木仕入、消費、在庫は基本的にない。広葉樹は12月も取引事業者の広葉樹原木確保が少なく、仕入は前月から微減。消費は工場稼働日数が増えた分やや増加。在庫は前月並で横ばい（九州）

## (原木価格)

・スギ・ヒノキは燃料の増加により上昇。マツは安定。広葉樹は高値安定（東北）。

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばいで変動なし（中国）。

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも購入価格に変化はない（九州）。

・スギ・ヒノキ、マツの原木は基本購入なし。広葉樹は単価の高い事業者からの仕入が増えたため、価格やや上昇。

## 29年12月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
生産動向	スギ・ヒノキ	33.3	16.7	8.3
	マツ類	0.0	△ 14.3	△ 14.3
	広葉樹	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
出荷動向	スギ・ヒノキ	33.3	16.7	8.3
	マツ類	7.1	△ 14.3	△ 14.3
	広葉樹	0.0	△ 12.5	△ 12.5
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 8.3	△ 8.3	△ 16.7
	マツ類	△ 28.6	△ 28.6	△ 28.6
	広葉樹	△ 18.8	△ 18.8	△ 6.3

・スギ・ヒノキの生産動向は3カ月連続増加。マツ類は12月の横ばいから1月、2月は減少に。広葉樹は3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの出荷動向は3カ月連続増加。マツ類は12月の増加から1月、2月は減少に。広葉樹は12月の横ばいから1月、2月は減少に。

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹の在庫動向は3カ月連続減少。

## (2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	29/12月	30/1月	2月
スギ・ヒノキ類	16.7	0.0	0.0
マツ類	14.3	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格動向は、全品目横ばい推移。

## モニターからのコメント

## (木材チップ荷動き)

- ・スギ・ヒノキの入荷量の増加により、出荷微増。広葉樹は入荷減により出荷減少（東北）。
- ・出荷の上昇を受け生産も増加。製紙会社の需要が増加。針葉樹チップ各社増集荷中。生産アップ、入荷減により在庫は徐々に減少（中部）。
- ・スギ・ヒノキ類、マツ類、広葉樹とも生産、出荷、在庫動向は変動なし（中国）。
- ・仕入原木の状況と同じ動きで、当月やや増加、翌月横ばい、翌々月やや減少の見通し。出荷は仕入原木の出荷動向による（四国）。
- ・全樹種とも計画通りフル生産、フル出荷の状態。チップ在庫は持っていない（九州）。
- ・スギ・ヒノキ、マツのチップは基本生産なし。広葉樹は工場稼働日数が増えた分、生産やや増加。製紙会社の受入れ制限はなし。スギ・ヒノキ、マツの生産はないので、在庫も基本なし。広葉樹チップの当月在庫はなし。基本、在庫は置かない（九州）。

## (木材チップ価格)

- ・値上げの話が全くないので、このまま推移すると思われる（東北）。
- ・製紙会社の需要が増え、買い入れ価格は上昇（中部）。
- ・スギ・ヒノキ類、マツ類、広葉樹とも木材チップ価格に変動なし（中国）。
- ・価格の改定変更はない（九州）。